

令和5年度 日立市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日立市立大久保小学校 教諭 石井 孝典

- 1 派遣期日 令和4年8月9日（水）～ 8月10日（木）
- 2 派遣先 学校名（会場名）学校法人 興國学園 興國高等学校
所在地 大阪府大阪市天王寺区寺田町1丁目4-26

3 研修内容

第67回全国特別活動研究協議大会

大会テーマ「出会い・ふれあい・語り合い つながる喜びがあふれる集団活動を通して、
未来を切り拓く資質・能力をはぐくむ特別活動の創造」

①分科会1 池田市立秦野小学校 谷川 貴行 先生

「一人ひとりの願いを叶えていく学級会をめぐって」

〈研究の重点〉

（1）ワークシートの活用

話し合いが活性化しやすいよう、ワークシートには自分の意見を書く欄と他者の意見と比べる欄を設けるように工夫した。また、授業後は教師が一人ひとりの記述に肯定的なコメントを書き、次回の話し合いでも自信をもって発言できるよう肯定感を高めた。

（2）話し合いの柱を明示する

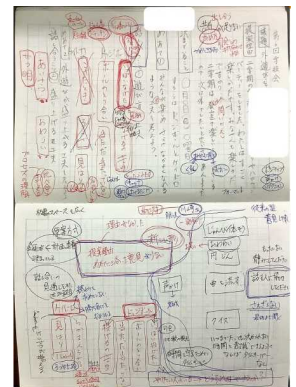
黒板に「話し合いの柱」を書くことで、常に「今は何について話しているのか」明確にする。話し合いの論点を全員が共有することで話し合いを活性化させる。

（3）ふりかえりで積み重ねる経験値

計画、話し合い・実践・ふりかえりを意識した学級活動を繰り返すことで、次回の話し合いの改善点が明らかになり、回数を重ねるごとに充実した話し合いになっていく。

（4）学級会ノート

学級会のノートはメモをするだけでなく、聞く姿勢や意見のつながりがどのようなようであったかや、話し合いの反省点なども書くよう指導する。書いたノートを学級内で掲示し共有することで、次回の話し合いの際に、どのようなことに気をつけながら話し合いをしたらいかががわかり、よりよい話し合いにしていこうとする意識が高まる。



②分科会2 新潟市立下山小学校 坂井 孝太郎 先生

「安心して自己を表出し、互いを受け止め合う話し合い活動」

〈研究の重点〉

（1）話し合い活動①「クラス会議」

- ・個人の困りや悩みをアンケートで集約、教師がその中から議題を選定し、車座になって意見を交流し合う「クラス会議」の取り組み。
- ・否定しない、うなずきながら聞くなど、相手の意見を受け止める受容的な雰囲気づくりを心がける。
- ・個人の困りや悩みについて話し合う中で、集団の中で解決すべき課題があることを気付かせていく。全員が過ごしやすい学級づくりを図っていくことで、学級に安心感が感じられる。

（2）話し合い活動②「成長を促す集団活動」

- ・児童会活動や学級でのレクリエーション活動などの集団活動では、教師がめざす児童の姿を明確に持ち、年間を通して成長を促す意識を持つことが重要。

- ・児童が自ら活動を計画し、実践、ふりかえりを行うことで、成長を実感できるようにする。
- ・話し合いがうまくいかないときには学級目標に立ち返らせて、話し合いの目的を再確認させる。

③ 講話 文部科学省初等中等教育局 安部恭子 視察官

「未来を切り拓く資質・能力を育む特別活動～多様な他者と協働して、よりよく生きる力を育む～」

(1) 学級活動(1)と(2)の整理

- ・学級活動(1)では、児童生徒が「共同の問題」を発見し、選定する。解決方法について話し合い、折り合いを付けて集団として「合意形成」を図ることが目的となる。言い換えると『自分もよく、みんなもいい』ことを決める。
- ・学級活動(2)では、教師が「共通の問題」を課題として設定する。教師の指導にしたがって解決方法を話し合いを通して考え、自己の課題に対する解決方法や努力目標を一人一人が「意思決定」する。

(2) 学級活動(1)の指導のポイント

- ・「議題」の適切な選定…学級の全員に関係することで、学校生活をよりよい物にするために必要なことを選ぶ。また、自分たちの力で解決でき、創意工夫の余地がある議題とする。
- ・「話し合うこと」の適切な設定…「何をするか」「どのようにするか」「係分担」のうち、「どのようにするか」に重点を置く。
- ・よりよい合意形成…安易な多数決で結論を出さない。少数意見を尊重し、生かす工夫を考える。そのために、意見を比べ、「折り合い」を付けながら合意形成を図る。キーワードは「見方を変える」「理由を明確に述べる」「共感的に理解する」。

(3) 学級活動(2)(3)の指導のポイント

- ・よりよい意思決定…事前アンケートを活用し、「自己の生活上の課題」であることを意識させる。学級や小グループで話し合い、多様な解決方法を見いだすようにするが、発表して終わりとならないように、その中で「自分に合った具体的な目標や実践方法」を意思決定できるようにする。

(4) 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のポイント

- ・主体的な学び…問題に気付く目を育む、適切な議題の設定、議題を「自分事」として捉える
- ・対話的な学び…学級での話し合いを生かした意思決定、ICT端末の活用、多様な意見のよさを生かした合意形成、協働的な学びを通して思考の質を高める
- ・深い学び…結果ではなく一連の学習過程を重視する指導、振り返りの充実

4 感想

二人の実践発表者の先生、講師の安部視察官ともに「ふりかえり」の重要性を述べていることが印象的であった。また、特別活動で行う各活動を単体で捉えるのではなく、年間を通して児童の成長を促していくという視点をもつことの大切さに気付くことができた。

さらに、授業実践や講話を通して、学級活動の(1)(2)(3)のそれぞれの目標や指導のポイントを改めて整理し、実践を知ることができた。本校で行われている特別活動がそれぞれ(1)(2)(3)のどの活動に当てはまるのかを意識することで、指導上の留意点や手立てをより明確にすることができるだろう。

本研究集会を通して、特別活動は児童の自治能力を高め、自己実現を図る教育の根幹であることが分かった。今回、このような機会を与えてくださったことに感謝し、今後の指導に生かしていくようにしたい。